

公の施設の指定管理者における業務状況評価

平成20年7月

施設名	高知県立文学館	所管課室	文化・国際課
-----	---------	------	--------

1 施設の概要

指定管理者名	財団法人高知県文化財団	指定期間	平成18年4月1日～平成21年3月31日
施設所在地	高知市丸ノ内		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・文学に関する書籍、原稿、文献、写真、フィルムその他の資料及び文学者の遺品等(以下「文学資料等」という。)を収集し、保管し、及び展示し、並びに閲覧に供すること。 ・文学資料等の調査研究 ・文学に関する講演会、講習会、映写会、研究会等の教育普及活動 ・企画展示室、ホール及び茶室の提供 ・上記のほか、文学館の設置の目的を達成するために必要な業務 		
施設内容	<p>面積、施設・設備名、定員、開館時間、休館日、主な料金など</p> <p><建物>延べ床面積:2,748㎡ RC造地上2階建</p> <p><土地> 4,747㎡</p> <p><主要施設> 常設展示室、企画展示室、寺田寅彦記念室、ホール、茶室など</p> <p><開館時間>午前9時～午後5時</p> <p><休館日> 12月27日～1月1日</p> <p><主な料金> 常設展 一般350円 高校生以下、高知県長寿手帳所持者(65歳以上)は無料</p> <p>施設利用料 企画展示室 22,640円(1日) ホール 12,200円(全室/1日) 茶室 3,490円(全室/1日)</p>		
職員体制	常勤職員: 5人	契約職員: 12人	合計: 17人

2 収支の状況

単位:千円

		平成18年度(決算)	平成19年度(決算)	平成20年度(予算)
収入	県支出金	128,220	126,469	127,046
	事業収入	2,868	5,746	5,643
	その他	2,370	299	800
	収入計	133,458	132,514	133,489
	(事業収入)注1			
支出	事業費	16,888	30,522	32,405
	管理運営費	95,585	96,090	94,113
	(うち人件費)	(62,391)	(61,754)	(66,273)
	その他	8,489	5,571	6,971
	支出計	120,962	132,183	133,489

3 利用状況

		平成18年度実績	平成19年度実績	前年度比
年間利用者数(単位:人)	常設展	4,870人	1,369人	-3,501人
	企画展	6,657人	13,938人	7,281人
	貸館	31,735人		-31,735人
	ホール	1,513人	8,472人	6,959人
	茶室	3,656人	3,161人	-495人
	合計	48,431人	26,940人	-21,491人
	<利用実績> H18年度は、企画展示室等を土佐24万石博の関連企画の会場として提供したという特殊事情があり、貸館は前年に比べ利用者が大幅に減少した。一方、本年度は年間を通して常設展・企画展を開催できたため、講座などのホール利用を含め、文学館を目的とした利用者は増加(10,739人 貸館、茶室を除く。)した。			

利用者意見等の反映	<p>・来館者対象のアンケート実施、イベント参加者への事業別アンケートを実施(対応) クレームは記録し、毎朝のミーティングでの伝達や回覧等で職員の共通認識となるよう努めている。また、外部有識者による運営協議会を開催している。</p> <p>その他 常設展リニューアルに際し、今までに寄せられたアンケートの声をもとに以下の変更を行った。 ・観覧者のため閲覧コーナーを常設展示室内に設け、展示している著作本などを手に取って見られるようにした。 ・高知県文学マップチラシを作成し、県内に建てられている文学碑や作家の生誕地、墓所などゆかりの地79カ所を紹介した。</p>
その他特記事項	<p>の館の利用のほか、以下のような活動を行った。 [教育普及事業] 文学専門講座 5回(295人) 児童生徒文学作品朗読コンクール 50校(135人) 朗読の会 11回 454人 記念講演会 3回 445人 紙芝居ボランティア公演ほか 351人 ほか</p>

4 平成19年度業務評価

項目	状況説明
管理運営に関する評価	<p>施設及び設備の管理を適正に行っている。ただ、利用実績について努力を認めるが、県立文化施設の同程度の予算規模の館と比べると弱く感じる。さらなる努力を望む。</p> <p>・入館者数の増加に努め収入増加を図るとともに、コストダウンを行うなど更なる工夫を望む。 ・受け付けスタッフは館の顔であることを考えると、接客研修を実践に生かすなど、サービス向上にもっと努力が必要である。</p>
事業の実施(企画及び運営)に関する評価	<p>展示室等のリニューアルなど、様々な工夫は見られるが、まだ静かなイメージが強く、県民へのアピールの弱さが気になる。参加、体験型企画にも努力の跡が見受けられるが、積極的に活動している館と認知されるよう、PR等の更なる努力を望む。</p> <p>・企画展に併せて講演回数も増えてよかった。「雅楽」イベントなど展覧会に関連する事業からのアプローチも評価できる。 ・宮尾関連展は集客につながっており内容もよい。 ・赤毛のアン帽子作り等、柔軟なイベントの開催は評価できる。 ・教育普及事業のうち高齢者向けの事業は充実しており努力を評価する。 ・館のリニューアルに伴い「こどものぶんがく室」がオープンし、子ども向け事業のメニューも増えつつある。今後より一層の充実を期待する。 ・開館以来の継続事業である文学講座や朗読コンクール等の参加者数は増加しており評価できる。 ・新規事業の朗読フェスティバル及びお話しキャラバン等の今後の展開に期待する。 ・若年層にねらいを定めた夏休み企画展の開催は、集客を図る手法として良い。一層の推進を望む。 ・カルチャーサポーター(61人登録)が、職員だけでは対応が難しい出前講座に協力していることは、評価できる。館の活動を広げていく意味で、良い取組であり、今後の活動の広がり期待する。 ・コンクールなど順位付けのあるイベントは、優秀者に賞品を贈る旨をセールスポイントとして宣伝し、集客を図る工夫も必要である。 ・資料収集について寄贈資料が増加するなど充実してきている。なお、資料活用面で、より一層の工夫を望む。宮尾資料が一括寄贈を受けるなど既存の資料も含め高く評価できる。 ・新収集システムへのデータの移行を早く進めることを望む。</p>
総体的な評価	<p>・常設展示のリニューアルを行い、入口に現代作家を用いるなど子どもや文学に触れる機会の少ない人にも親しみ易い展示となった。 ・これからの10年、若年層を対象とした事業の一層の充実を期待する。</p>
総合評価	<p>・次々に開催される企画展がそれぞれに見ごたえがある。来館者が増えつつあるので良い展覧会を継続できるよう努力を望む。 ・リニューアルにより子どもたちが文学に親しみやすくなるための環境整備や若年層向け事業の増加など、取り組み面での努力が大変感じられる。「高知の文学館」という独自性を持ちながら、より一層、県民に利用してもらえる館を目指し事業を行ってほしい。 ・文学館の趣旨は充分理解しており、収集資料の充実も頼もしく思う。 ・入館者数など他館と比較して運営費用に割高感がある。集客による収益の増加等を図るとともにローコスト化や運営費用の工夫が必要である。</p>

【評価の目安】

- A: 仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
 B: おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
 C: 仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
 D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの

評価項目ごとの評価内容

県立文化施設指定管理者事業評価シート(平成19年度事業)

施設名	高知県立文学館		
評価項目	評価	特記事項	
1 管理運営の基本方針（総括）	A	<ul style="list-style-type: none"> 常設展示のリニューアルを行い、入口に現代作家を用いるなど子どもや文学に触れる機会の少ない人にも親しみ易い展示となった。 これからの10年、若年層を対象とした事業の一層の充実を期待する。 	
<p>平成19年度の高知県立文学館の管理運営（事業）にあたって、どのような方針を立て、どう結果をだしたか。</p> <p>平成18年度事業評価の結果を踏まえ、どのように取組んできたか。</p>			
2 事業を通じて県民の創造活動の支援、文化振興への寄与ができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> 展示室等のリニューアルなど、様々な工夫は見られるが、まだ静的なイメージが強く、県民へのアピールの弱さが気になる。 参加、体験型企画にも努力の跡が見受けられるが、積極的に活動している館と認知されるよう、PR等の更なる努力を望む。 	
(1) 展覧会事業の実施	A	<ul style="list-style-type: none"> 企画展に併せて講演回数も増えてよくなった。「雅楽」イベントなど展覧会に関連する事業からのアプローチも評価できる。 宮尾関連展は集客につながっており内容もよい。 赤毛のアン帽子作り等、柔軟なイベントの開催は評価できる。 	
企画展の実施回数及び常設展を含む展示内容、集客目標と観覧者数等の状況			
理解促進の取組の状況			
展覧会事業についての特記事項			
(2) 教育普及事業その他の事業	B	<ul style="list-style-type: none"> 教育普及事業のうち高齢者向けの事業は充実しており努力を評価する。 館のリニューアルに伴い「こどものぶんがく室」がオープンし、子ども向け事業のメニューも増えつつある。今後より一層の充実を期待する。 開館以来の継続事業である文学講座や朗読コンクール等の参加者数は増加しており評価できる。 	
事業の内容、件数、参加人数の状況			
教育普及事業その他の事業についての特記事項			
(3) 事業を通じた創造活動・文化振興の支援	B	<ul style="list-style-type: none"> 新規事業の朗読フェスティバル及びお話しキャラバン等の今後の展開に期待する。 若年層にねらいを定めた夏休み企画展の開催は、集客を図る手法として良い。一層の推進を望む。 	
子どもが文学に親しみ感性を育む取組			
高齢者や障がい者が利用しやすい取組			
文学活動を支援する取組み			
施設の活用			
(4) 県民の視点にたった運営	B	<ul style="list-style-type: none"> カルチャーサポーター(61人登録)が、職員だけでは対応が難しい出前講座に協力していることは、評価できる。館の活動を拡げていく意味で、良い取組であり、今後の活動の広がりに期待する。 コンクールなど順位付けのあるイベントは、優秀者に賞品を贈る旨をセールスポイントとして宣伝し、集客を図る工夫も必要である。 	
文学館の活動や文学についての情報提供			
利用者、県民へのレファレンスの状況			
県民参加の活動			
県内の文化施設との連携			
3 資料の適正な管理と活用ができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> 資料収集について寄贈資料が増加するなど充実してきている。なお、資料活用面で、より一層の工夫を望む。 	
(1) 資料の収集及び保存管理	A	<ul style="list-style-type: none"> 資料収集について宮尾資料が一括寄贈を受けるなど既存の資料も含め高く評価できる。 新収集システムへのデータの移行を早く進めることを望む。 	
資料収集の状況			
資料の修復			
保存環境の維持			
(2) 資料の効果的な活用	B		
資料データの管理			
所蔵資料の活用の状況			
調査研究と成果の公表			
4 効率的な運営とサービスの向上が図れたか	B	<ul style="list-style-type: none"> 努力は認めるが、県立文化施設の同程度の予算規模の館の利用実績と比べると弱い。さらなる努力を望む。 	
(1) 経営努力	B	<ul style="list-style-type: none"> 入館者数の増加に努め収入増加を図るとともに、コストダウンを行うなど更なる工夫を望む。 	
収入増加の取組			
経費縮減の取組			

(2) サービス向上への取組 自己点検・評価の状況 事故、クレームへの対応 職員の専門性の向上 その他のサービス改善事項	B	・受け付けスタッフは館の顔であることを考えると、接遇研修を実践に生かすなど、サービス向上にもっと努力が必要である。
(3) 社会的責務 専門的人材の育成 県内の文化施設を牽引する取組 法令・規程等の遵守	B	
5 施設及び設備の管理は適正に行えたか	B	・施設及び設備の管理を適正に行っている。
(1) 建物や設備の管理状況 点検・修繕の実績 第三者への業務委託の状況	A	
(2) 危機管理 (風水害、火災、地震、盗難等危機管理対策、マニュアル作成や職員研修など)	B	
総合評価	〔評価委員の意見〕	
B	・次々に開催される企画展がそれぞれに見ごたえがある。来館者が増えつつあるので良い展覧会を継続できるよう努力を望む。 ・リニューアルにより子どもたちが文学に親しみやすくなるための環境整備や若年層向け事業の増加など、取り組み面での努力が大変感じられる。「高知の文学館」という独自性を持ちながら、より一層、県民に利用してもらえる館を目指し事業を行ってほしい。 ・文学館の趣旨は充分理解しており、収蔵資料の充実も頼もしく思う。 ・入館者数など他館と比較して運営費用に割高感がある。集客による収益の増加等を図るとともにローコスト化や運営費用の工夫が必要である。	